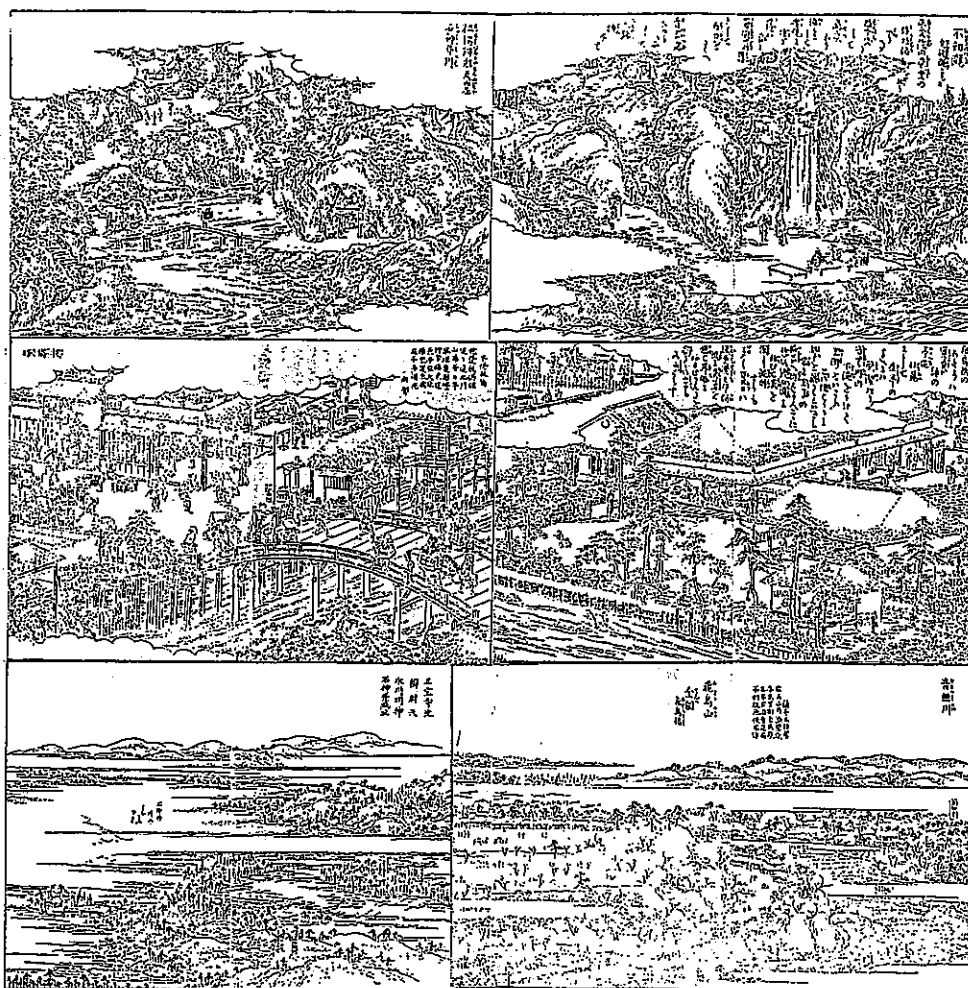


平成14年7月29日(月)

# 第五回石神井川流域連絡会



出典:江戸名勝図会

平成14年7月29日(月) PM6:30から『第五回石神井川流域連絡会』が、2時間半にわたり開催されました。

公募委員10名(北区、板橋区、練馬区、西東京市、小平市)と行政委員10名が参加しました。

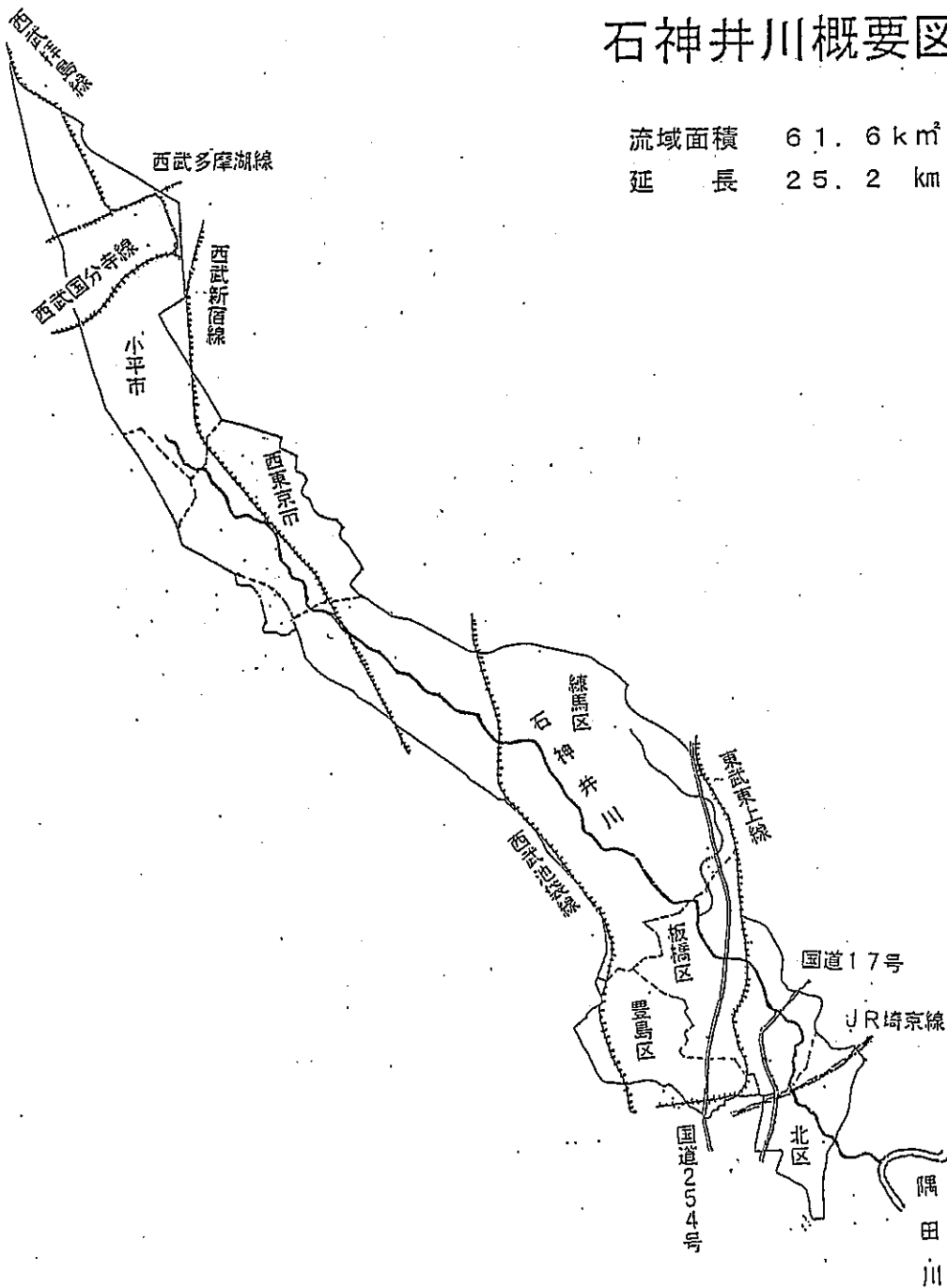
当日は、石神井川に係わる、河川整備計画(素案)の一部及び河川整備についての提案等の説明がなされ、委員の質疑などが行われました。

## 連絡会の目的

石神井川流域連絡会は、都民と行政が共通認識に基づき協働・連携して地域に生きた親しめる川づくりを進めて行くため、流域の住民や、区市及び都が河川に係わる情報や意見の交換・提案を行うことを目的としています。

## 石神井川概要図

流域面積	61.6 km <sup>2</sup>
延長	25.2 km



石神井川流域連絡会 委員名簿

平成14年7月16日現在

委 員																																					
都 民 委 員	<table border="1"> <tr> <td>北 区</td> <td>江 原 秀 典</td> </tr> <tr> <td>北 区</td> <td>清 水 孝 彰</td> </tr> <tr> <td>北 区</td> <td>遠 山 隆 久</td> </tr> <tr> <td>北 区</td> <td>山 田 久 司</td> </tr> <tr> <td>板 橋 区</td> <td>山 本 村 元 雄</td> </tr> <tr> <td>練 馬 区</td> <td>秋 山 榮 子</td> </tr> <tr> <td>練 馬 区</td> <td>海 野 幸 雄</td> </tr> <tr> <td>練 馬 区</td> <td>三 浦 清 喜</td> </tr> <tr> <td>西 京 市</td> <td>吉 村 理 司</td> </tr> <tr> <td>小 平 市</td> <td>後 藤 英 謙</td> </tr> <tr> <td>小 平 市</td> <td>羽 鳥 三</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">都 民 委 員 計</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">12名</td> </tr> </table>	北 区	江 原 秀 典	北 区	清 水 孝 彰	北 区	遠 山 隆 久	北 区	山 田 久 司	板 橋 区	山 本 村 元 雄	練 馬 区	秋 山 榮 子	練 馬 区	海 野 幸 雄	練 馬 区	三 浦 清 喜	西 京 市	吉 村 理 司	小 平 市	後 藤 英 謙	小 平 市	羽 鳥 三	都 民 委 員 計		12名											
北 区	江 原 秀 典																																				
北 区	清 水 孝 彰																																				
北 区	遠 山 隆 久																																				
北 区	山 田 久 司																																				
板 橋 区	山 本 村 元 雄																																				
練 馬 区	秋 山 榮 子																																				
練 馬 区	海 野 幸 雄																																				
練 馬 区	三 浦 清 喜																																				
西 京 市	吉 村 理 司																																				
小 平 市	後 藤 英 謙																																				
小 平 市	羽 鳥 三																																				
都 民 委 員 計																																					
12名																																					
行 政 委 員	<table border="1"> <tr> <td>北区建設部河川公園課長</td> <td>清 水 英 男</td> </tr> <tr> <td>板橋区土木部管理課長</td> <td>谷 口 博 志</td> </tr> <tr> <td>練馬区土木部建設課長</td> <td>黒 田 叔 孝</td> </tr> <tr> <td>西京市都市整備部下水道課長</td> <td>篠 宮 國 雄</td> </tr> <tr> <td>小平市環境部下水管理課長</td> <td>島 山 敏 郎</td> </tr> <tr> <td>東京都環境局環境改善部計画課長</td> <td>穂 積 憲 重</td> </tr> <tr> <td>東京都建設局河川部副参事(中小河川計画担当)</td> <td>※東 野 寛</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(前任 内藤久男)</td> </tr> <tr> <td>東京都第四建設事務所工事第二課長</td> <td>伊 藤 浩 之</td> </tr> <tr> <td>東京都第六建設事務所工事課長</td> <td>※浦 山 斉</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(前任 田中敏夫)</td> </tr> <tr> <td>東京都北多摩南部建設事務所工事第二課長</td> <td>新 井 敏 男</td> </tr> <tr> <td>東京都北多摩北部建設事務所工事第二課長</td> <td>※青 木 浩</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(前任 二口祥二郎)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">行 政 委 員 計</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">11名</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">合 計</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">23名</td> </tr> </table>	北区建設部河川公園課長	清 水 英 男	板橋区土木部管理課長	谷 口 博 志	練馬区土木部建設課長	黒 田 叔 孝	西京市都市整備部下水道課長	篠 宮 國 雄	小平市環境部下水管理課長	島 山 敏 郎	東京都環境局環境改善部計画課長	穂 積 憲 重	東京都建設局河川部副参事(中小河川計画担当)	※東 野 寛		(前任 内藤久男)	東京都第四建設事務所工事第二課長	伊 藤 浩 之	東京都第六建設事務所工事課長	※浦 山 斉		(前任 田中敏夫)	東京都北多摩南部建設事務所工事第二課長	新 井 敏 男	東京都北多摩北部建設事務所工事第二課長	※青 木 浩		(前任 二口祥二郎)	行 政 委 員 計		11名		合 計		23名	
北区建設部河川公園課長	清 水 英 男																																				
板橋区土木部管理課長	谷 口 博 志																																				
練馬区土木部建設課長	黒 田 叔 孝																																				
西京市都市整備部下水道課長	篠 宮 國 雄																																				
小平市環境部下水管理課長	島 山 敏 郎																																				
東京都環境局環境改善部計画課長	穂 積 憲 重																																				
東京都建設局河川部副参事(中小河川計画担当)	※東 野 寛																																				
	(前任 内藤久男)																																				
東京都第四建設事務所工事第二課長	伊 藤 浩 之																																				
東京都第六建設事務所工事課長	※浦 山 斉																																				
	(前任 田中敏夫)																																				
東京都北多摩南部建設事務所工事第二課長	新 井 敏 男																																				
東京都北多摩北部建設事務所工事第二課長	※青 木 浩																																				
	(前任 二口祥二郎)																																				
行 政 委 員 計																																					
11名																																					
合 計																																					
23名																																					

※:14.7.16 の人事異動による新規委員

事務局	東京都第四建設事務所 工事第二課 工務係
住所	〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-36-2
電話	03-5978-1734
	担当:田 島、松 岡

# 第五回 石神井川流域連絡会 会議要旨

日 時 平成14年 7月29日 (月)  
場 所 第四建設事務所 C 会議室  
出席者 委員20人 傍聴人2名 全28名

## 1. 開 会

2. 報告事項 ..... 行政委員の変更について ..... 3名の変更があり、承認されました。

## 3. 議 事

1) ① 石神井川河川整備計画の策定について

② 石神井川河川整備計画 (素案) について

・平成9年度に河川法が改正され、「環境」の項目が追加され、河川計画制度も改正されたので、今回、都も河川整備計画を改正することとなった。しかし、①、②の内容について、同時に説明されたが、作成途中のため整備計画の取りまとめの方向性とポイントを明らかにした。

・河川整備計画において記載すべき項目の説明概要

I. 河川整備計画の概要と目標に関する事項

1. 概要            2. 目標

II. 河川の整備の実施に関する事項

1. 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに河川管理施設の機能の概要

2. 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

3. その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項

### 〔質疑応答〕

(都民委員) 伊勢湾台風級の高潮に対処できる施設の整備とは、具体的にどのような事を考えているか。平常時の流量の確保は、具体的にどう考えているのか。

(事務局) 高潮区間は、溝田橋から下流の区間で、現況の防潮堤は高さは足りております。たまたま、首都高の工事があり、それに伴い作り替えをすることです。平常時の流量確保は、具体的な策が有りませんので、答えることができません。総合的な治水対策で、洪水流量の低減と、地下水の保全を行い、流量の確保に努めたいと思います。

(都民委員) 対象、期間が概ね30年とは、間延びして、せめて10年以内にといい気概をこの文面に入れてもらいたい。それと、去年大きな台風があり、堤防まで1m位まで水が上がった。その時、1時間の降水量が何mm位だったのか。50mm降ったか調べて欲しい。75mm対策が本当にできるのは、30年先になるのか、50年位先か。皆さんが川を見るように、川を覗けるような護岸にして欲しい。

(事務局) 残りの50mm/hの改修は、10km程度で、10年では、終わらないと考えております。治水としては、未改修区間を1日でも早く整備したい。昨年の雨が、どの位降ったか調べます。

75mm/hの対策については、地下河川だけでなく、調節池も整備していかないと、できません。30年のスパンを考えても難しい。河川の事業者として50mm/hは完成したい。なおかつ75mm/hの施設も作っていきたくて考えており、局所型集中豪雨にも対処する1時間75mm/h施設の一部をやる状況となっております。覗けるような護岸ですが、洪水を流すということで、基本的には護岸というものが避けられない。

(都民委員) 掘れば水がもっと流れるのではないか。

(事務局) 途中だけ掘っても、下流がついてこないことが有ります。

2) その他 ①「神田川流域浸水予想区域図」について

(都民委員) 北区は、今年から荒川洪水ハザードマップを作って発表した。地域住民は、これで非常に不安にあおられている。北区の防災計画では、荒川の河川敷に逃げる事になっており、洪水の時、皆水没して仕舞うのではないかといいことがある。それと、石神井川もハザードマップ的なものを作るのかどう

か、それと荒川も石神井川も違っているんで、基準を同じものにしないと、比較できない。最初に、ちゃんとしている事が必要じゃないかと思うのですよ。

(事務局) ハザードマップを作ったのは神田川の流域で、石神井川については引き続きやり、他の河川も順次作っていきたくて考えています。石神井川流域浸水予想区域図は、今年度末迄に作りたくて考えております。荒川と石神井川は、計画の規模が違い、荒川は、200年に1回、石神井川は、50mm/hは3年に1回、75mm/hは15年に1回の確率規模です。河川の規模で、被害も変わってくる考え方があり、目標値が変わってきます。それと、浸水予想区域図を作る時に、神田川の場合は、発端は名古屋の東海豪雨であり、それをベースに決めています。もし東京で東海豪雨のような雨が降った場合、どこに逃げていくか、といったことを知っていただくことが、被害を少なくすることにつながると考えました。

(都民委員) 東海豪雨を基準としたことは、何日間でもどの位、総量でどの位降ったか数値で表さないと、不安ではないか。

(事務局) 平成11年9月の東海豪雨は、時間最大の雨量は114mm、総雨量589mmでした。

(都民委員) 集中豪雨の場合は別として、かなり広範囲に降った時、荒川の上流も降っており、荒川の本流が増水している。隅田川も増水しており、地域の複合の豪雨に対応した考え方をしないと、こちらが雨で、むこうが晴れているのでは、全然意味がない、そういうことも考えられているのか。

(事務局) 114mmの雨が、神田川流域全体で降ったとの、前提条件です。その時に河口の隅田川は、満潮位のAP+2.1mで考えてるので、石神井川も降る、荒川も降るでしょう。その時に河口の潮位、水位が上がっているんで、仮定条件は整合しています。

(都民委員) 概ね30年というのは、30年間位は適用出来る計画と思ったのですが、10年では無理かも知れないが、難しく考えないことと、不安をあおるような事をやらないこと。10年では長すぎるようにおもうが、それを適用して行って、無理だったら見直すことが必要で、臨機応変に対応していくことが必要と思います。

(事務局) その積みもりです。整備の考え方は、その時々社会的とか、整備の方向といったものも還元していくようなことを、柔軟に考えていかねばならないと思います。30年間こういうことは、コンクリート化されたものではないということです。

(都民委員) 河川部だけでは処理できない物もあると思います。30年先に都市化がどう変わるかです。今、練馬区でも、緑地がほとんどコンクリートやアスファルトにかわった。もう少し都市化が進んだ、というようなシュミレーションして、都市化の見通しでこうなる、それで当面、拡張する工事は、こうするとか、これだけでは、住民に訴えるものが少ないと思う。

(事務局) 都市河川が抱える課題と言いますか、まちの発展が先に行ってしまうと、川づくりと町づくりとの整合が取れていないと思います。30年の計画を立てるにあたって、まちづくりがどう進展していくか、市街化の進展で、川なりに計画を立てたいと思ってます。例えば、土地利用の進展の状況が書いてます、一応石神井川流域でどういう風に都市化が進んできたか、現状を認識して書いてございます。

(都民委員) どの位、緑地が減っているかね。

(事務局) 一番下が平成5年で、ほぼ現状に近いので、市街化の面積は、流域で9割かた進んで、白く大きい所が、緑地が残っている所です。こういったことは事前に計画を作るときに検討し、考えていきたい。

(都民委員) 昭和25~6年位まで、豊島園の所は、石神井川の所まで歩いて2~3歩ですぐに水です。それが、20年過ぎたら3階の屋上から見下ろすような川になった、それでもなをかつ溢れるから、拡張工事をしよう、ということでしょう。都市化がどう変わってくるかによって川は、どの様にも変わるのです。だから、これだけ緑地が無くなってくると、この川の流域に住んでいる方達は枕を高くして寝られませんかよ、ですから、これから、家でも良いですが、作る建坪に対し、どれ位の緑地ですね、これが必要だということ、その辺の打ち合わせをした結果、こういうシュミレーションをしましたよ、ということぐらい、やったらどうなのですか。

(都民委員) 河川利用について、平常時の水量を確保するには、どんな方策が考えられるのか、再度伺いた。透水性の舗装、あるいは湧水源の確保とかは、環境局の方でも問題にしている、各家にも浸透枮を設置することを推奨していると有ったが、どの位の割合で普及しているのか、還元される地下水がどの位増えているのか、あるいは減っているのか。

(行政委員) 雨水浸透枮等の効果ですが、野川流域で試行的事業で行っている。雨水浸透枮からしみこんだ水が、

川へ流れて来ているか、実証する明確なデータはまだ集められていない状態で、内部で検討している段階です。

(都民委員) 地下水が浸透樹の設置により、増えてくるであろうと予想され、期待のもとに、河川整備の計画がなされているのか。実際30年間の間にどうなるか判らない。河川自体が水が涸れてしまい、親水環境も無くなってしまふ、ということも考えられるので、どうであるか。

(事務局) 具体的な導水策を今のところ書けないことで、浸透樹を作ったり、あるいは、今後、具体的な施策については、検討していく位しか、書けないのです。仰るように、水が無ければ川ではありません。東京の河川として、皆さんに認められるかという、まず、綺麗な水が流れるのが川で、具体的な記述はできないが、これから出てくるものを、調整を含めて、目標みたいな書き方をしました。川づくりには、平常時の水量の確保が欠かせないものです。

(行政委員) 補足させて戴きます。総合治水の浸透とは、治水に対する役割はどうか、関心を持っており、効果も期待しています。例えば、雨が樋から出る水、下水に入る前に、バケツに入れて戴く、そうすると川へ出てくる水の量が、それに見合っただけ、減ってくるという算術が成り立つ。ところが今の話の難しさは、平常水量を維持確保する為に、どれだけの雨水浸透をやれば良いかというのは、効果が出てくるに違いないということやってるけど、どれ位期待できるかと言えば、数字としては、極めて難しい状態です。事務局から説明したが、例えば、品川区の立会川で、先日、東京駅の地下駅から出てきた水を、そこへ流しました。表層の数10cmの所を、綺麗な水が流れて、臭気が無くなってきたと言う。河川の維持水量を確保する試みのなかで、東京駅の地下駅が、地下水の上昇によって構造物が浮力で押し上がるという状況と、下水に流してしまうのはもったいないという中から、河川を良くしたいという人達の考えが一致し、やった事例です。初めから、計画してやった野火止用水とか、施設を作って送っている渋谷川・古川・目黒川といった河川にお金をかけている事例で、いわゆる環境費用というのは、いずれもが税金です。今、我々が考えているのは、安い費用で、良い水が得られるようなものをさがしているのが現状です。河川の維持流量を確保するために、色々な総合治水という方法でやってるが、浸透という効果を期待してるが、数字ではまだ表してません。いつまでも雨水が地面に浸透していれば良いといっても、それを浸透する能動的な力より、開発の速度が早いというのが現状で、維持流量の確保は、簡単な問題でないと思ってます。

(都民委員) 今後の進め方について、計画策定について、河川整備計画の認可申請を年度内にやりたいといいますが、時間が短すぎるのではないか。

(事務局) 目標として来年の3月に認可をとということは、こちらの勝手な都合で、こういう場所でしっかり説明させて戴き、色々な意見を聞いて、原案作りをしたいということで、お願いします。色々な意見を、この回数だけではまとめきれない、というような意見が多ければ、回数を増やしても良いのではないかと、思ってますが、そういう進め方をしていきたいと思ってます。

(都民委員) もし仮に、年度内に作るのなら年明けに原案が出来て、公表されてから策定までの期間が2ヶ月位しかなくなってしまう。今から、この連絡会以外で河川に関心ある人などの、住民の意見を聞いたらどうか。

(事務局) 整備計画を作る方法が細かく決まっていません。私どもで考えているのは、まず、この流域連絡会の場で、皆様のお力を借りて作りたいと考えてます。並行して一般都民の方の意見を伺うやり方がありますが、この流域連絡会でご意見を戴きたいと考えてます。

(都民委員) 河川計画制度の改正ですが、学識経験者の意見を聞けとか、住民の意見を反映させるとかがありませんね、先に住民の意見とかを聞いて、出来た段階で、ひっくり返る可能性があるじゃないか、その時にどう対応できるのか。実は、荒川下流工事事務所では、重要な問題が出ておりました。地域住民に説明して貰いたいとお願いしているが、それを聞く耳を持たないんですよ。同じ流れが有るのではないかという気がするが、そういう事が無いようにして戴きたいのですが。

(事務局) 内容にもよると思います。本日提示しました素案は、目次は書かれておりますが、第一章第2節までで、後ろのペーパーが付いてません。それで、次回にお示して、それで議論して戴き、その時に、同時並行で、都民の意見を聞けば宜しいのではないかという、会の結論ができれば、その段階で、ホームページ等に掲載することが出来るのではないか。

(都民委員) 整備計画とは何かを、住民は知らないから、今後いろいろな河川でやっていくための基本的なもの

を、今から作りますよ、ということを知ることです。

(都民委員) 本来この議論しますと、煮詰まってきたと思いがちで、少し時間を懸けた方が良いのではないかと。

## 2) その他 ②石神井川の護岸整備に対するご提案・ご意見等について

(座長) 次の議題に入らせて戴きます。石神井川の護岸整備に対する、提案とか意見等について、今日、海野委員は欠席しまして、私案として資料をお預かりしておりますので、配付しております。事務局の方で、海野私案を説明願いたいので、事務局お願いします。

(事務局) それでは、先程資料をお配り致しました。石神井川茜橋わんど親水公園化私案 整備工事その 131について。

1. コンセプト ・よどみ、淵、瀬の再生による川とのふれあいの創出
2. 期待効果 ・水生生物の定着 ・水生生物の定着 : かるがもの営巣の期待  
・こどもを中心とした石神井川とのふれあいを深められる
3. ハード的施策/整備 ①飛び石エリア ②ワンドエリア
4. ソフト的施策 ・基本的に、親水階段側は、立ち入り自由とする。  
・清掃等のメンテナンスは、ボランティアや地元小中学校により行う。  
・将来的には、親水公園からカヌー等も利用できるようにし、親水の拠点としていく。 以上でございます。

(座長) 海野委員がいれば、補足説明等をして戴いたと思いますが、この案について、事務局の考え方は、どうですか。

(事務局) 事務局のは、自己責任等により、自由な立ち入りを許すとしておりますが、石神井川は都市河川で、雨が降った際は、急激な水位上昇があり危険となっております。現在は閉鎖されています。ワンドエリアについては、今後、河床を掘る際に、検討したいと考えております。

(都民委員) こういう意見を出されることについて、非常に良いと思います。それと茜橋ということだけでなく、一般論として、なるべく自然に近いように、したいという気がします。そういうのが河川でないか、この中で子供達が利用できるのか。問題は、飛び石で、なぜタイル張りではなくてはいけぬのかという気がする。立ち入り自由というのは、当然、洪水の時は入ってはいけぬので、そういう時は管理責任が問われるが、そうでなく、平常時に子供達が、立ち入りして遊べる所を作って下さいということだと思います。あと個別の所で、どう検討していくかと思っております。先程、透水樹とか透水性舗装を話されたが、市街化の中で、いかに保水性とか透水性とかを良くするとか、透水樹と道路は点と線しかないのです。だから、区域からすると、かなり低いのではないかと。それより、どれ位緑化が出来るとか、市街化する中で、降った雨が地下浸透が出来ると、それから、管理通路とかなかあれば、木を植えて、地下水が涵養できるか、もう少し検討する必要があるのではないかと。そういうことを踏まえて、子供達が遊べる河川を作ろうとしても、水がなくて、どこからか導水事業で、再生水を持ってきてやると、かなりお金がかかる事業になるわけです。なるべく自然の水が、しみ出て来るような中で、自然環境が出来るような、川づくりをするにはどうするか。今日は無理かもしれないが、出来れば、良いと思います。

(都民委員) 具体的なことなのですが、首都高速の王子線の完成は、いつなのですか。

(行政委員) 王子線は年内に、12月一杯で開通する。

(都民委員) 間違い有りませんね。それによって、うちの方の会も、新規の住民たちの意向を聞きながら、どう整備していくか、考えなくては行けないので、間違い無いですね。

(行政委員) 区の広報にあり、あくまでも区の構想です。

(都民委員) 環境局の方から、浸透樹の進捗状況とかを、設置日、個数、そういったデータを次回、教えてほしい。

(行政委員) それは野川流域でやっている、私どもの事業ということですか。環境局では、野川で、試行的にやっているが。

(都民委員) 野川だけなのですか。

(行政委員) はい、効果は示せませんが、試行の段階です。

(事務局) 総合的な治水対策として、都市計画局のデータを整理して、次回に出したいと思っております。

(都民委員) 雨水浸透が、流域全体で治水対策を行うのは重要で、財政や企画とかいつた方の考え方を、変えるようお願いしたい。浸透効果と、平常水量を確保する治水の効果は、実行済のときはゆっくり出る。水を一気に流す考えは治水にとって危険であり、地道に進めてほしい。

(事務局) 浸透樹なり透水舗装は、総合治水の考え方で、まず、洪水の量を減らす対策を町の中でやりましょうということが発端です。雨が降って地面にしみ込み、全体の流れを考えると、水の流れを低減させることと、地下水の涵養というような面があるので、総合的に考えることです。浸透樹は、平常には流量を増やすということも目的、効果もあるし、雨が降ったときの洪水の量を減らすこともあります。

(都民委員) 石神井川の菫橋ワンド親水公園化について、考え方は賛成です。理由は、新しい「利水」の方法と思う。川に興味を持って、ふれていくことは、河川を「開いていく」ことだと思う。雨水浸透拵の有効性について、データが有ったら示して欲しい。

(行政委員) 武蔵野の湧水は、近郊だけでなく、水脈によっては、奥多摩の方から伝わっているという意見もあり、その辺を含めた効果は、見通しが立たない。

(都民委員) 拠点整備箇所の方は、30年以内になっていきますので、よろしいですか。

(事務局) 出来たら良いと、考えています。

(都民委員) 委員は、上流から下流まで全部かかわって、いくのが本来だが、近いということも有り、飛鳥緑地を見たいと思う。計画が有るな、知りたいし、我々も積極的に参加して、具体的に図面を書くなど、やってみたいと思う。具体案が有れば、早めに、郵送でおくって貰いたい。

(事務局) 本当は、全部を検討するのが本来なのか知れませんが、テーマでやることも有ると思うし、赤い点だけでも、具体的にやっていく、考え方もあるのではないかな。

(都民委員) 区さんでは、飛鳥緑地は、具体的にできているのですか。

(都民委員) 首都高王子線の絡みで、かなり旧川の残地が出るような所なので、都市計画が決定された、候補地であって、具体的な話がありませんが。

(座長) 資料が有りまして、出せば、出すということで、今回、首都高王子線の話も出ましたので、次回の予定ですが、事務局どうですか。

### 3) 今後の予定について

(事務局) 次回の予定について、10月中旬過ぎ頃に行きたいと思えます。石神井川の王子駅から隅田川合流点の1.3km位を平日に見学して、時間が余れば他も見て、こちらへ戻り、会議を行いたいと考えたが、どうでしょう。

(都民委員) 素案の審議をやるのではないのか。

(事務局) 現場を視察して、その後、石神井川河川整備計画素案を審議したい。夜だけでしたら、素案を審議するだけと思えます。半日でも割いて戴ければ、皆様のご意見はどうでしょう。

(都民委員) 現場を見ることは、よいが。

(都民委員) 現場は、大きな問題が有り、大きな変化となるので、今、一番作りやすい時なので、素案作りに提案して戴ければ、区としても良いかと思えます。

(都民委員) 高速道路は、ほとんど出来てしまうので、あと下の方の整備の問題。

(都民委員) 下の方は、その儘だから。

(都民委員) 高速道路が出来てしまっても、下はまだだから。

(都民委員) 意見を出して貰わないと、区といっしょになって、やっていかないと、区の方としては住民の声を聞くというのだから、我々の意見も入れて戴きたいと思っております。

(座長) 次回は、どうでしょうか。平日の午後で、現場を見て戴いて、その後に施設もあるというので。

(事務局) これをやるために、その夜も6時半にセットさせて貰います。時間のゆるす方は、隅田川の合流点まで残ってますので、現場の視察ということで、会議に先立って、応じたいということです。

(座長) ご都合の良い方は現場視察をお願いしたい。整備計画を作る一環として、現場も見た方が良いことで、前回は要望が有り、提案をさせて戴いた。い時間等については、早くお知らせすることとします。

### 4. 閉会

(座長) それでは第5回流域連絡会を終わらせて戴きます、長い間、有り難うございました。 —以上—



入り口に水のみ場 & 水道 (清掃等のメンテナンスのため)



このエリアは、水のみ場と水道のメンテナンスのため

飛び石エリア

岩石、木のかき取りにより積極的によどみをつくる

わんどエリア

土部分を残り、植物の根付きを待つ

少し湾曲した淵

土の平らな部分をじっくりカルガモの営巣を期待する

## 石神井川 菖橋わんど親水公園 整備案

石神井川流域協議会 滝野 2002.7.24